

表（わ）行より心行

教祖様は表（わ）行よりも心行をせよ。と言われてはいますが、心行とはどんなことか？また何故心行が大切なのかということがちゃんとわかっていないと、何年信心をしても役に立たないことになります。

神を信心するのに、一心にならぬとおかげは受けられぬ、といえます。一心とは一つ心であって、熱心とか一生懸命というのは少し違うものであります。そこで一つ心についてお話を致しましょう。

教会に古い信者さんが参ってこられて、まず神様に向かって有難うございます。とお礼を申される。それがすむと、こちらの方を向いて色々話をされるが、そのうちにあっちこっち痛いところがあることや、具合悪いところのあることを打ち明けられる。段々愚痴がではじめ、腹立たしいことなどまでとびだしてくる。そしてこのような自分の現状が淋しくて、その果てには死んだ方がましだなどと言いだされるのであります。有難いのか・有難くないのか・長生きしたいのか・早く死にたいのか・何が本心だかよく判らないのであります。そこで本当はどうなんですか？と聞いてみたら、どれもこれも本当の気持ちですと答える。色々

とたくさん心の心を持っているのです。そのたくさん心の心一つにまとめていく心があるので。代表的な心とでもいってよいでしょう。そしてこの一つにまとめていく代表的な心というのは、放っておいて自然に生まれてくるというものではないのです努力して作り上げていかなければならないのです。そこで心行ということが必要になってくるのです。心行をしないと自分の中に起る様々な心をまとめていくことができません。辛抱さえしていたらとか、まことまことといってさえおればよいというような簡単なものではないのです。まことに人間は有難いと思う時、腹立たしいと思う時、長生きせねばと思ひ、そのすぐあとから早く死にたいとも思うものなのです。心は千千に乱れるのです。これが普通の人です。

教祖様は、おかげは和賀心であり、と仰せられております。和賀心が信心の中心とならなければなりません。一心に願え、おかげは和賀心であり、なのであります。

色々、様々な心をまとめて私の本心はこうなんです。これに間違いありません。とはつきりさせることができたなら、その心の影ははっきりとうつしだされて参ります。様々な思いのままではその心の影はぼやけてはつきりうつらないのです。先程の古い信者さんのように、今日こうして不自由なく長生きさせて頂いてまいりました。色々なことがありましたが、何はともあれ有難いことでございますといいいながら、しかし、実はここが痛く眼も不自由にな

ってきたし、それで不安がつの人とのつきあいも段々できなくなってきました。仕事もあまりできません。淋しいことです。近ごろとみにそう思うようになったと愚痴をこぼす。そしてこんな自分が悲しいし腹立たしい。近くにいる家族もこんな私をみて尚うつとうしく思うようになったので、余計つらいし悲しい、というようになってくるのです。

命の勢いが段々衰えてくると、心が淋しくなったり悲しくなったりしてきて、今までつながつていた縁の糸が崩れはじめてくる。縁というのははつりあってこそ保たれていますが体が悪くなり心が崩れてくるとその縁はぐらついていくのです。そしてそれがまた淋しさを呼び悲しくなってくるのです。

そこでその自分を治めるのに信心の徳が必要なのです。人間は誰でもよい時もあり悪い時もある。それを自分で治めていかなければならないのです。乱れたままであつたり、荒れっぱなしであつたりというのでは何の為に長年信心してきたのかさっぱりわからんということになります。淋しい心を落ち着かせ、いざという時には自分で自分に引導をわたすぐらいの気甲斐性がなければなりません。

有難い有難いという人には有難いことばかり起きます。という教えがありますがその反対に、愚痴や不足ばかり言っている人には、そのままの悪いことがついてまわります。

このことは心霊の法則です。心には様々な心が起こりますが、これをまとめて本心の願いを決めていくのが心行です。一心とは本願を立てていくことなのです。